

座光寺の寺子屋について教えて

寺子屋てらこやというのは、江戸時代の農村の学舎まなびやの一つであります。寺や個人の家へ子ども達が通いました。座光寺にも江戸時代の終わり頃には数軒の寺子屋がありました。どんな子ども達がどんな勉強をしたのか探してみたいと思います。

座光寺には寺子屋がいくつあったか

江戸時代以前から子ども達も寺で勉強することが多かったといわれます。寺へ勉強に行く子どもを「寺子」、勉強するところを「寺子屋」といいました。

座光寺でも耕雲寺や如来寺に「寺子屋」があったと思いますが、記録が残っていません。北原家年代記によると、1790年（寛政年間）以前から、欠野北原家で寺子屋が始まり、師匠ししょうは4代続き、400人ほどの筆子ふでこの名前が残されています。北原家のほかには、一覧表のように11軒ほどの寺子屋があったといわれます。1872年（明治5年）に、如来寺で筑摩県第32小校しょうこうが開かれた時には、4軒の寺子屋から小校へ通ったといわれています。

座光寺の寺子屋一覧		
NO	場所 師匠名	創設年代
1	佳気野（鐺酒舎） 北原 林藏（信維） " 民右衛門因信 " 稲雄（森右衛門） " 信綱（東五郎）	寛政年間以前
2	城 美佐山 三村 佐吉	文政年間
3	五郎田中谷 田桐平左衛門 " 千代治	文政年間
4	中市場古瀬 今村善右衛門	天保年間
5	恒川梶屋敷 佐々木覚左衛門	弘化年間
6	半ノ木御鏡 塩澤甚三郎	弘化年間
7	古市場志茂 上沼太郎 " 長作	弘化年間
8	古市場 上沼平太郎	弘化年間
9	流田 吉川作太郎	弘化年間
10	中羽場 櫛原周太郎	明治初年
11	原 三村新藏	明治初年

何才からどんな勉強をしたか

北原家の記録によると、1854～1859年（安政年間）以前は、9才から登山（入門）するのが普通でありましたが、その後6才から7才くらいの子どものもいたといわれます。よく、「読み」「書き」「そろばん」といいますが、午前中は「習字」、午後は「読書」「算術」のほかに行儀見習い・運動などがあったといわれます。明治の頃になると、国学の本や祝詞の勉強もあったといわれます。

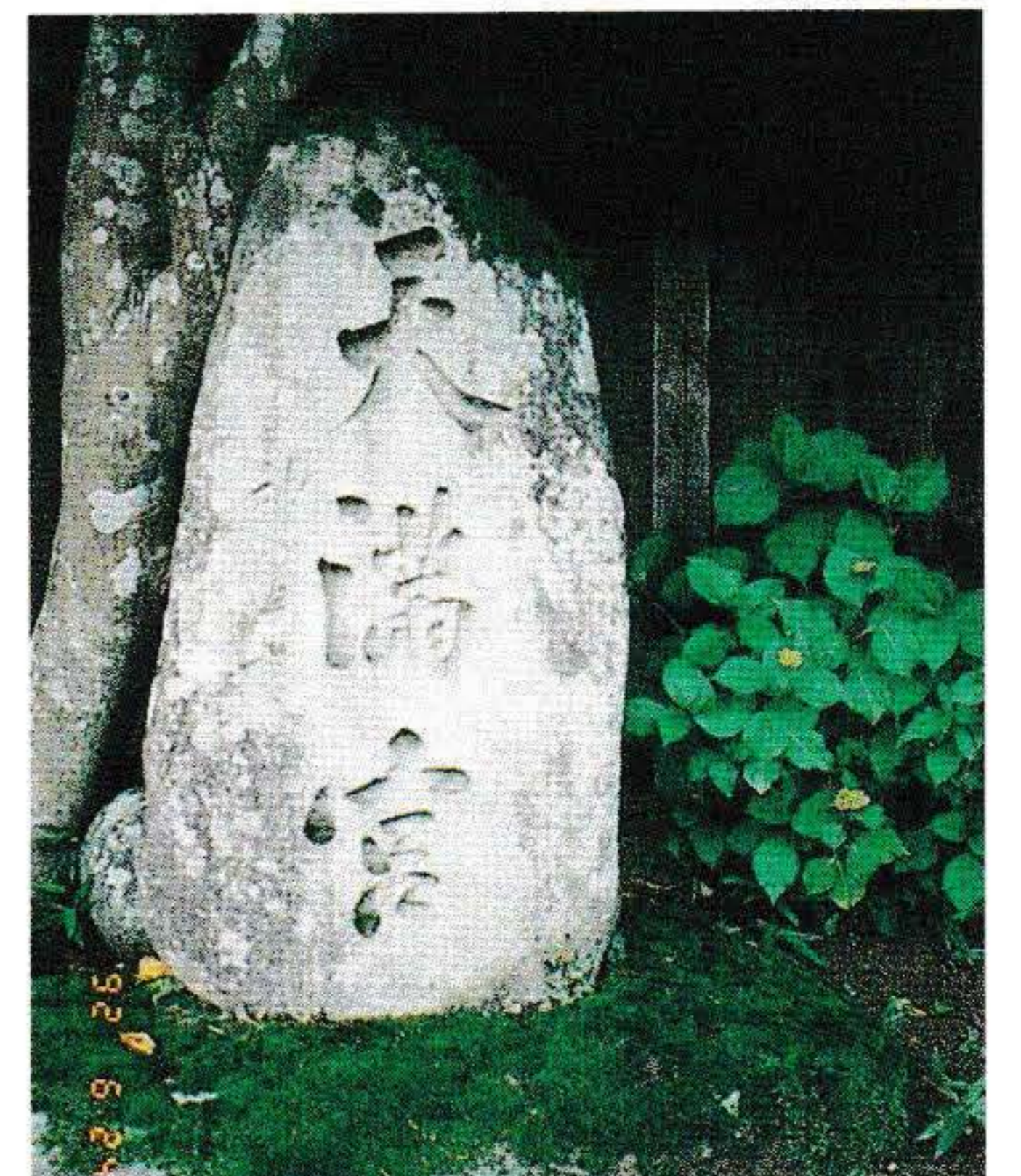
江戸時代の終わりの頃には、北原稲雄を中心にして、国学を勉強する人が多くいました。その人達が寺子屋を開くことが多く、弘化年間以降に寺子屋の数が増えていることが表でも分かります。

天満宮はどこにあるか

天満宮というのは、学問の神様といわれる菅原道真を祀るお宮のことですが、この場合は「天満宮」と書かれた石碑のことです。北原家年代記によると、1805年（文化2年）に嶋明神社の近くに天満宮再建と書かれているが、現在その所在は分かりません。天満宮の石碑は、師匠ししょうの墓に筆子ふでこの名を刻んだ吉川家のものを含めると、次のところに9基残されています。宮崎もくろんじ、城美佐山、半の木塩澤家、古市場上沼家、古市場畦地、高岡神社境内、中市場今村家、欠野三王社、流田吉川家墓地であります。



中市場古瀬の天満宮



古市場志茂の天満宮

（今村善興）